

たじみん昼話 82

令和3年度、入学式の式辞と祝辞

学校長式辞

多治見高校の100年の歴史を閉じ、新たな100年を切り拓く君たちをお願いしたいのは、3つのことだ。

第1は、一歩前に踏み出す勇気を持って行動して欲しいことだ。

人間は本能的に変化を望まないため、新しいことに踏み出すにはエネルギーがいる。しかし、そこで勇気をもって踏み出すと、新しいステージに行くことができ、見たことがない景色を見ることができるだろう。その喜びを、是非高校時代に味わってほしい。

第2は、物事の本質に粘り強く迫って欲しいということだ。我々は先人が連綿と築き上げてきた英知を、系統立てて学校で学んでいる。しかし、先哲が求めたのは、様々な知識から得られた思考による、万物やその真理の根源であり、学問の本質は、物事の本質を見極めることだ。そこには明確な正解はなく、粘り強く考え探求を継続しなければ到達するのは難しいだろう。だからこそ、文理と安易に学びを分けず、粘り強く真理を探究して欲しい。

第3は、協働しながら切磋琢磨して、お互いの能力を高めていって欲しい。

世の中は多様でできている。おそらく同じような人はいても全く同じ人は存在しないだろう。即ち、お互いの差を原因として相いれない状態になるより、認めながらその差異として持っている能力を相互に取り込みながら成長することで、人間の本質や物事の真理を究めることができるからだ。

多治見高校の学校目標は、自ら未来を切り拓き社会に貢献する人材育成だ。

3年間1000日の高校生活を通して、この3つの力を身に付ければ、それを達成することができる。

大変で不安だろうが、強力な応援団である保護者と共に頑張ってやり抜いて欲しい。そして忘れてならないのは、本校の職員力だ。それを既に準備をして達成できるスタッフを取り揃えている。頼って欲しい。

このように、新入生には多くの応援団がついている。恐れず前向きに、目標に向かって、それらの礎を築くことを祈っている。

育友会長祝辞

この春の卒業生は、与えられた条件を受け入れ、最後まであきらめずに粘り強く受験に挑んだ。それはこの三年間にできた友人の存在があったからだ。新入生の皆さん、この三年間の高校時代にできる友人は、一生の共になる。それは、この高校時代は特別で不思議な時間だからだ。その一つの要因が、多治高生が美德として捉えていた文武両道をこの学校は教育して達成してくれるからだ。

多治見高校が100周年を迎えることができるのは、地域に愛され、卒業生たちがこの学校を愛し大切にしてきたからだ。これを上手く引き継ぎ、実りある高校三年間を過ごすことを願う。